

松本市工業ビジョン 令和4年度 成果指標に対する評価検証(内部評価)

基本戦略	基本方針	成果指標	目標値(累計)		H30年度実績 (数値)	R元年度実績 (数値)	R2年度実績 (数値)	R3年度実績 (数値)	R4年度実績 (数値)	備考
			2022年	2027年						
ICTの活用 による地域産 業の振興	ICT技術の導入・活用による収益性向上・新ビジネスの創出	バックオフィスセンター活用事業所数	15事業所	30事業所	1事業所	6事業所	8事業所	5事業所	3事業所	
		支援機関のコーディネーターの支援を通じたICT活用・導入事業所数	5件	10件	1件	5件	55件	42件	8件	
	ICTを活用できる人材、研究開発に取り組む人材の育成	既存企業に対するセミナーの受講者数	100人	200人	55人	60人	158人	53人	106人	Tech勉強会：30名 移住RoundTable：10名 お金にまつわる基礎知識：11名 フリーランス交流会：8名 3周年イベント：36名 情報セキュリティ対策セミナー：3名 プレゼンテクニックセミナー：8名
	ICTを活用した新たな働き方・雇用の創出	ICT拠点施設のテレワーク業務受注額	1,500万円/年	3,000万円/年	1.1万円	275万円	1,629万円	2,094万円	1,738万円	ワーカー収入額 1,252万円

1 目標手順

短期目標 (H30~R元)

中期目標 (R元~R2)

長期目標 (R3~)

- 1 中小企業の支援
 - ・エクセル、アクセス、HP作成など、ICTを活用できる人材の育成
 - ・中小企業のニーズ把握
- 2 テレワーク業務受発注システムの構築
 - ・既にスキームを確立している塩尻市と連携した取組み
- 3 拠点施設整備
- 4 サテライトオフィスへの企業誘致

- 1 コワーキングスペースでの異業種ワーカーによるイノベーションや新たなビジネスの創出コーディネート
- 2 起業支援、スタートアップ支援
- 3 テレワークオフィスによるテレワーク業務の充実
 - ・大手クライアントからの安定的な業務受注及びワーカーへの分配発注
 - ・地元中小企業の間接業務支援スキームの構築
 - ・テレワーカーのスキル向上と、更なる業務受注量、額の増
- 4 サテライトオフィスでの新規雇用の創出

- 1 ICTのプロフェッショナル、高度人材の発現
- 2 子ども（小中学生）を対象としたICT教育
- 3 ICT教育を通じた子どもの地元地域に対する愛着の醸成

2 長期目標（令和3年度以降）に対する取組計画

(1) ICTのプロフェッショナル、高度人材の発現

ア. 多様なテーマを扱うことでICT拠点としての認知を広げつつ、専門的な知見を共有するセミナーも織り交ぜることで高度な知識の共有を図ります。

→ 情報セキュリティ、プレゼンテクニックなどの切り口で幅広く知識提供の機会を設けた。

→ 加えて、関東経済産業局等と連携して「データ活用ブートキャンプ」を開催することで、自社課題をDXで解決していくためのきっかけを提供。

イ. コワーキングの賑わい創出のためのさまざまなイベント、ワークショップ、情報発信をすることで、併設するサテライトオフィスを含め、サザンガクにICT人材を集結させ、新たなビジネスコラボやサービス、プロダクトのプロフェッショナル、高度人材の発現を目指します。

→ サテライトオフィス入居企業を巻き込み、ITツールのノウハウ共有を目的とした勉強会や、フリーランスの働き方に関するセミナー等を開催。

→ 3周年イベントでは、県内企業をゲストに迎え、トークイベント「実践者が熱く語る！21世紀の地方ビジネス論」等を開催。

(2) 子ども（小中学生）を対象としたICT教育

(3) ICT教育を通じた子どもの地元地域に対する愛着の醸成

ア. 信州大学不破先生のご協力により、子どもプログラミング体験教室を開催します。

イ. 初心者を対象とした教室を2回、前年度対象児童生徒の継続教室を2回の計4回を予定。

ウ. その他、子どもや若者を対象としたイベントの開催に協力します。

→ 令和4年度は、初級講座（1回）を開催。

3回の連続講座として開催し、例年よりも高度な内容について学んだ。